

G8サミット過剰警備の回顧と展望



▼「サミットでのテロ懸念 警察庁「治安の回顧と展望」」(産経新聞 2007年12月11日)

警察庁は10日、国内外の治安情勢を分析した平成19年版「治安の回顧と展望」をまとめた。来年7月の北海道洞爺湖サミット(主要国首脳会議)について、「日本がテロの標的となるおそれがあるほか、極左暴力集団(過激派)や右翼によるテロ、ゲリラ事件や、反グローバリズムを掲げるデモなどに伴う違法行為の発生も懸念される」と警鐘を鳴らしている。サミットをめぐっては17年7月、英國グレンイーグルズでの開催中、ロンドンで同時多発銃弾テロが発生。警察庁は主会場の北海道洞爺湖付近以外の地域や公共交通機関などをねらったテロの可能性を警戒している。

▼「サミットでテロと暴動懸念 警察庁07年「回顧と展望」」(西日本新聞 2007年12月11日)

警察庁は10日、国内外の治安情勢をまとめた2007年版「治安の回顧と展望」を発表した。来年7月に開催される「北海道洞爺湖サミット」に向け、「イスラム過激派によるテロや、反グローバリズム運動に取り組む団体による暴動が発生する可能性がある」と警鐘を鳴らしている。この中で05年7月、英グレンイーグルズサミット開催中にロンドンで起きた同時多発テロなどを例に挙げ、「開催地だけでなく、公共交通機関などのソフトターゲットに対するテロが否定できない」と指摘。その上で「日本には多くのイスラム諸国出身者が滞在、コミュニティーを形成しており、テロリストがテロ実行に当たり、こうしたコミュニティーを悪用、若者の過激化に関与する可能性がある」と分析している。

▼「サミットでのテロ警戒=07年「治安の回顧と展望」-警察庁」(時事通信社 2007年12月11日)

警察庁は10日、国内外の治安情勢を分析した2007年版「治安の回顧と展望」をまとめた。来年7月の北海道洞爺湖サミット(主要国首脳会議)に際して、「日本が国際テロの標的となる恐れがあるほか、反グローバリズム勢力による暴動なども懸念される」として、関係機関と連携し、不法行為の未然防止に総力をあげている。北海道洞爺湖サミットは、01年の米同時テロ以降、国内初のサミットとなり、4~6月には各地で外相や司法・内務相らの会議が開催される。同庁は、05年7月の英グレンイーグルズ・サミット開催時は、ロンドンで同時多発テロが発生したとして、北海道以外の地域や公共交通機関などへの警戒が必要とした。また、「一部の反グローバリズム団体が抗議行動を呼び掛けているほか、国内過激派がこうした団体との連携を強め、ドイツのサミットでの抗議行動にも参加した」と指摘した。

▼「サミットに備え1300人訓練=過去最大規模、近畿6府県警-大阪・堺」(時事通信社 2008年1月29日)

7月の北海道洞爺湖サミット(主要国首脳会議)の関係閣僚会議が5月から神戸、大阪、京都の3都市で開かれるのを前に、近畿管区警察局と近畿2府4県の警察本部は29日、堺市の産業廃棄物処分場で、過去最大規模の合同訓練を行った。訓練には機動隊員ら約1300人が参加。「サミット反対」と叫びながらジグザグ行進するデモ隊の規制や、火炎瓶や石を投げる暴徒を放水車やガス銃などで鎮圧する訓練を繰り返した。伊藤茂男近畿管区警察局長は「サミットをめぐる情勢は極めて不透明で厳しい。訓練を積み重ね、本番に的確に対応してほしい」と訓示した。

▼「本番ながら「暴徒鎮圧」の訓練 サミット会合前に」(朝日新聞 2008年1月30日)

北海道洞爺湖サミットを前に、各閣僚会合が予定されている近畿の6府県警と近畿管区警察局は29日、堺市内の埋立て地で合同警備訓練をした。サミットを想定した合同の大規模訓練は初めて。約1300人の機動隊員らが本番ながらに「暴徒」を鎮圧した。7月のサミットに先立ち、近畿では環境(神戸、5月)▽財務(大阪、6月)▽外務(京都、同)の各閣僚会合があり、近隣の奈良、和歌山、滋賀の各県警は応援として出動する予定。警察庁によると、近年のサミットでは、「反グローバリズム」を唱える団体がサミット反対を訴えて大規模なデモを起こし、暴動に発展するケースもあるという。今回の訓練でも暴徒鎮圧が中心となった。伊藤茂男・近畿管区警察局長は「サミットをめぐる情勢は不透明であり、訓練を積み重ねて本番に的確に対応してほしい」と訓示。違反なジグザグ行進や投石を繰り返すデモ隊や暴徒に警察官が扮し、盾を持った機動隊員が取り押さえる訓練を実施した。

▼「東京ミッドタウン」で毒ガス!?...対テロ訓練」(読売新聞 2008年2月12日)

今年7月の北海道洞爺湖サミットに向け、警視庁は12日、東京都港区の大型複合施設「東京ミッドタウン」でNBC(核・生物・化学)テロ対策訓練を行った。訓練はミッドタウンのショッピングエリア「ガレリア」の入り口付近に放置された紙袋から有毒ガスが発生し、周囲にいた客が倒れたという想定。ミッドタウンの警備員が110番し、防護服を身に着けた公安機動捜査隊のNBCテロ捜査隊や赤坂署員らが密閉容器を使った有害物質の除去や周辺の除染作業を行った。警視庁は東京都内の公共交通機関や大型施設などがテロの対象になる可能性があるとみており、「サミット警備の主戦場は東京」として、民間企業などと連携して訓練に力を入れている。

▼「洞爺湖サミット:警備の経験者総動員 現役OBがワザ伝授」(毎日新聞 2008年3月8日)

今年7月の北海道洞爺湖サミットに向け、警視庁警備部がベテラン世代の警備ノウハウの活用に乗り出している。要人警護を担当する警護課は、00年の九州・沖縄サミット以来となる「現役OB」を招集。テロ警戒にあたる機動隊も、学生運動や安保闘争を経験したOBが若手の指導にあたる「アドバイザー制度」を導入した。警視庁は、豊富な経験を生かして、サミット会場の北海道や首都・東京の大規模警備を乗り切る構えだ。「状況を判断しつつ生命を守る。国賓の車のドアの開け方をマスターするにも数年かかる」(警護課幹部)。来日する首脳の「動く壁」となるのが、民放ドラマでも活躍が取り上げられたSPと呼ばれる警護課員だ。車列や宿舎など警護の形態に応じて陣形も変わり、国ごとに警護のやり方も異なる。技術と経験が求められるうえ、一部首脳の東京滞在も予想され、北海道と東京の二手に分かれた警護態勢が必要だ。こうした課題を解決するために投入されるのが、警護課を経験して都内各地の所轄署に散っているベテランだ。招集は九州・沖縄サミット以来8年ぶり。各府県警からの応援要員とともに数ヶ月前から北海道入りし、統一した要人警護の中心的役割を果たす。もうひとつの課題が、東京でのテロ警戒だ。警視庁は機動隊員約3000人の約半数の派遣を予定しているが、残りを補う切り札として、02年のブッシュ米大統領来日以来となる「方面機動隊」を招集した。有事に備え、各署の交番や交通担当の若手を中心に登録されている「臨時部隊」で、テロの標的になりやすい大規模集客施設などの警戒に当たる。しかし、近年はデモ隊との衝突や暴動がなく経験不足が指摘される。警備部は、60~70年代の荒れた現場を踏んだ機動隊OBの現役警察官をアドバイザーに任命。昨年12月から全96署で約300人が訓練指導にあたっている。東大安田講堂事件や連合赤軍による浅間山荘事件など当時の映像を編集した教養ビデオも作成し、警備用の盾の使い方などの実践や現場指揮をめぐるワザを伝授。警備部幹部は「オール警視庁でサミット警備を完遂したい」と話している。

▼「道庁爆破」想定し訓練=北海道警」(時事通信社 2008年6月6日)

来月7日から始まる北海道洞爺湖サミットに向けたテロ対策として、北海道警は6日、道庁への爆弾テロを想定した道職員避難と爆発物処理の訓練を実施した。写真は警察官の誘導に従って避難する道庁職員ら(札幌市)。

何故、警察は異常とも言える警備体制をとったのか?

▼各位

来る2008年7月より開催される北海道洞爺湖サミットに宇宙怪獣ギララが北海道に襲来するとの一報が、我々、地球防衛軍にはいった。どうやらギララは、膨大なエネルギーを吸収し、北海道内を破壊していく恐れがあると言う。これを受け、G8主導の下に、G8宇宙怪獣対策作戦本部が結成される模様。我々も対策本部に全面協力し、地球防衛軍の名に賭け、謎の生物ギララと闘う所存である。国民の危機が迫った今、この機会を逃さないよう願う。

▼反サミットデモに3000人 警備陣大動員、逮捕者4人

(朝日新聞 2008年7月5日)
北海道洞爺湖サミットに反対する国内外の非政府組織(NGO)を中心としたデモ行進「チャレンジ・ザ・G8サミット 1万人のピースウォーク」が5日、札幌市中心部であり、北海道警はデモに絡み、ロイター・ジャパンのカメラマンら男2人を公務執行妨害容疑で、別の男2人を同市公安条例違反容疑で、それぞれ現行犯逮捕した。調べでは、カメラマンは5日午後4時ごろ、デモの取材中、警備中の警察官の腰をけった疑い。ほかの3人は、車を警察官に接触させたり、道公安委員会の許可したデモの条件に違反して隊列を広げようと扇動したりした疑い。ピースウォークは、平和や貧困解消を訴える目的で、市民団体などが主催。サミット前後に札幌市で開かれるデモ行進としては最大規模で、約3千人が参加した。参加者は思い思いの横断幕やプラカードなどを持てて午後3時に同市の大通公園をスタートし、約2キロを練り歩いた。「非暴力」が参加条件だった。道警はピースウォークに昨年の独ハイリゲンダム・サミットで暴徒化したデモに参加した外国人が参加するという情報があり、要所に機動隊を配置するなど大がかりな警備態勢をとっていた。主催団体のメンバー越田清和さんは「ほとんどの参加者が平和的に自分たちの主義主張を発信できたのは良かった。逮捕者が出了のは残念だが、物を壊すなどの事態はなかった。これだけ警察ががっちり囲むというのは、過剰警備だ」と話した。

▼「平等と自由、民主主義に彩られた祝祭空間」伊田浩之 (「週刊金曜日」2008年7月18日号)

わずか八人の首脳が世界の将来を議論する。この究極のトップダウンに反対、異議を申し立てる「祭り」が札幌で、洞爺湖近くで盛り上がった。最大の行事は、サミット二日前の五日に行われた「一万人のピースウォーク」。参加者は色とりどりのぼりや横断幕などを手に札幌市中心部の大通り公園に集まつた。デモ行進の参加者は主催者発表で約500人。真夏日のなか、反貧困などを訴えながら、約2キロ離れた中島公園までを約2時間かけて歩いた。これら祝祭的空间に暴力を加えたのは「国家」だった。もともと露骨だったのは五日の「ピースウォーク」で、ロイター通信のカメラマンを含む四人を公務執行妨害などの容疑で逮捕した。車線をはみ出て広がるデモ参加者は確かにいたが、デモを先導しているサウンドカーや近くの参加者を執拗に挑発したのが機動隊・警官側だったことは明らかだった。しかも、車のサイドガラスを警棒で粉碎、運転手を引きずり出して逮捕する。「剥き出しの暴力」。私服警官らしき人物が「(逮捕は)一人でいい、一人で」と叫ぶなど、逮捕自体が目的だったことをうかがわせて。ジャーナリスト以外の三人は1、まだ釈放されていない(一五日現在)。警察は全国から約2万1000人を動員して警備。サミット総費用約400億円(○八年度予算。八〇〇億円との報道もあり)の半額が警備費とされる。ある政府関係者は「これだけ力を使って平和に終わりました、ではメンツがたたない。逮捕者が必要なんだろう」と話している。

▼「参加者3,000人に1,000人以上の過剰警備?」(原田宏二「市民の目フォーラム北海道」2008年7月7日)

何故、警察は異常とも言える警備体制をとったのか。別の見方も可能だ。警備・公安警察は、戦前の特高警察の流れをくむ警察の一部門だが、特高警察が終戦とともにGHQの指令により、治安維持法と共に廃止されたように、ときの政治情勢に左右される警察の部門である。戦後も日本共産党等の左翼、反日共系の急進的・戦闘的な極左暴力集団、右翼、オウム真理教(現アーレフ)、新興宗教、朝鮮総連、労働運動、反戦運動などを監視し、ときには関連する犯罪を検挙してきた。しかし、警備・公安警察が対象にしてきた関係諸団体の活動は、東西冷戦の終焉等によって低迷の一途を辿り、このところ目立った警備事象はほとんど無い。長期間にわたって平稳に推移した警備情勢は、警備・公安警察の士気の低下を招き、エリート集団とも言われた警備・公安警察では、考えられないような幹部による不祥事も目立つ。警備・公安警察は、目標を失い迷走を始めた。そこへ降って湧いたように起きたのが、平成13年9月に発生した「米国における同時多発テロ事件」である。警察庁では平成16年4月、警備局に外事情報部を設置するとともに、従前、外事課に置かれていた国際テロ対策室を国際テロリズム対策課に発展的に改組し、外国治安情報機関等との連携を緊密化するなど、「国際テロの未然防止」を警備・公安警察の最重要課題と位置づけた。しかし、長期間にわたる平稳な警備情勢と目標の喪失は、必然的に、機動隊の練度の低下をはじめ警備・公安警察の士気と能力の低下を招く。全世界から注目を浴びる北海道洞爺湖サミットの警備は、低迷を続ける警備・公安にとっては起死回生のチャンスである。そして、警察にとっては、主要国首脳などの身辺の安全確保し、サミットと関連行事の円滑な進行確保という結果は当たり前のことだ。それだけでは十分ではない。それ以外の結果も必要だ。つまり国際テログループや極左暴力集団を検挙するという実績が求められる。北海道警察としては、何としても事件を検挙する。そんな意気込みがあつたに違いない。しかし、本格的な国際テログループをおいそれとは検挙出来ない。デモの小規模グループの跳ね上がりの検挙なら比較的容易だ。そんな思惑があったのではないか。逮捕者が4人というのも手頃な数字である。事前の広報対策を徹底したので、事後の警備体制に支障が出るような大規模な抗議活動の可能性もほとんど無い。そんな読みもあったはずだ。もう一つは、今回の警備には、全国警察の機動隊の士気の高揚と訓練の場の提供という意味もあったのではないか。過去の全国規模の警備というと、平成12年の九州・沖縄サミットの警備、平成14年のブッシュ米大統領の来日に伴う警備くらいだろう。全国の機動隊やその指揮官のほとんどは「荒れる現場」の体験がない、実戦経験が不足している。現場の機動隊員とその指揮官の動きを観察しているとその感を強くした。採証・検挙隊の警察官も今回の事件処理が初体験の警察官も多かったのではないか。逮捕者には申し訳ないが、今回の4人逮捕は手頃な訓練になったはずだ。北海道洞爺湖サミットは間もなく終わる。果たして、国際テログループや極左暴力集団によるテロ等が起きるのか。そして、今回の警備が、警備・公安警察の起死回生に繋がるのだろうか。」

▼「デモ逮捕の3人 処分保留で釈放 札幌地檢」(「北海道新聞」2008年7月17日)

札幌地檢は十六日、北海道洞爺湖サミットに反対するデモに参加し、札幌市公安条例違反の現行犯などで逮捕、拘置された札幌市のディスクジョッキー(DJ)の男性ら三人を処分保留で釈放した。これを受け、デモ参加者でつくる救援会は同日、道庁で記者会見し、「逮捕するほどのこともないのに、車の窓ガラスを割って引きずり出すなどした。民主国といえないやり方だ」と非難した。三人は「踊るなどしただけで逮捕は不当」としていた。同地檢は「今後は在宅で調べる」という。

▼「逮捕の4人 起訴猶予に サミットデモ」(「北海道新聞」2008年8月23日)

7月の北海道洞爺湖サミットに合わせて札幌市で行われたデモ行進の際、違法なデモを扇動したなどとして、札幌市公安条例違反や公務執行妨害の容疑で逮捕された、札幌市のディスクジョッキーや外国通信社のカメラマンら日本人四人について、札幌地檢は22日までに、違法性の程度が軽微だとして起訴猶予処分とした。

理由はテロか?OBか?
それともギララか?

